

霜月を迎えて

分所長 高木敏彦

11月に入り、早くも後二カ月を数えるだけとなりました。令和みろく(567)の後半に向けて仕上げの道に向かっていくのを楽しみにして過ごしたいものです。開祖大祭での教主様ご挨拶に、聖師さまの吉岡発言から80周年となる、来年のみろくの最終年を迎えるにあたり、心して世界平和実現を叶えたいと訴えています。

さて、今月の分所大祭時に来年度の更生奉仕金(あなないのまこと)申込書をお配りしますので、来月の月次祭までに提出をお願いします。また天声社よりご案内があり、みろくのよ誌が値上げとなり年間購読料が6,720円となりますのでよろしくお願います。

これから寒くなってきましたので、お体に充分気を配り、人型ご宣教にお励みください。

道の光

(31ページ)

出口 王仁三郎

人の四魂を合わせて心(こころ)という。この心に、恥ずると、悔ゆると、覚(さと)ると、畏(おそ)るとの四つの役所あり。荒魂(あらみたま)には恥ずるといふことと重く、和魂(にぎみたま)には悔ゆるといふことと重し。ま

た奇魂(くしみたま)には覚るといふことと重く、幸魂(さちみたま)には畏(おそ)るといふことと重きものを知るべし。

人は生まれ変わらねば、高天原(たかあまはら)に至ることあたわず。生まれ変わるということは、肉体のことにはあらず。わが魂の曇りを去りて、赤児(あかご)のごとき従順(すなお)なる心に魂をもちかえて、神の御心に服従(まつろ)いまつることなり。赤児が母の乳をたずぬるがごとく、神の道をたずね慕う心こそ、神はうけ入れたもうなれ。

朝な夕なに、われらを守らせたもう大神の御仁慈(みなさけ)は、海よりも深く山よりも高し。神は御手(おんて)を延ばして人民をいだきたまえど、心の盲者(めしい)のみ多き人民は力かぎりに逃げまどう。されどなお見すてたまわず、厚きめぐみを加えたまいて、大峠のいたらぬうちに、人民を奈落の底より救いいださんとしたもうこそ、ありがたけれ。

主な行事予定

11月3日(日) 午前10時より長生殿にて

開祖大祭

11月10日(日) 午前10時半より

碧南分所秋季大祭・祖霊合同慰霊祭

11月17日(日) 午前10時より

三河本苑月次祭

11月24日(日) 午前10時より本苑にて

エスペラントの会

12月1日(日) 午前10時〜午後3時本苑にて 申込締め切り 11月24日。参加費用大人

500円 子供無料。蒲生眞矢さんまで

少年冬季学級

12月8日(日) 午後1時半より

碧南分所月次祭

12月22日(日)

担当第1班

誠心会万祥殿献勞

11月の誕生者

おめでとうございます!

杉浦 光和 1日 市古 香名子 2日 粟津 裕美 4日 藤浦 直仁 13日 神谷 亮一郎 14日 粟津 有姫子 15日 杉浦 剛 16日 榊原 遼 17日 蒲生 知典 18日 樫山 満里子 20日 江坂 芳子 27日 安藤 かなめ 28日 市古 真理子 29日 小笠原 愛美 30日